



【教育目標】 自ら学び正しく判断して行動する国際性豊かな児童生徒の育成を  
~~~~ 一人一人が輝く子どもの姿を求めて ~~~~

☆8月の目標

- ☆学習をがんばろう
- ☆みんなと なかよくしよう
- ☆笑顔で あいさつしよう

☆配布物のお知らせ

1 学校便り

☆今後の行事計画

・9月23日 運動会

☆四年二組  
作品をしようかいする文を書こう  
「ひとつの花」  
緒方心菜

「ひとつの花」の作者は今西祐行です。「ひとつの花」では、戦争のはげしいころの一つの家族のことが書かれています。

「ひとつの花」の登場人物は、お父さん、お母さんとゆみ子です。お父さんとお母さんは両方ともやさしい人たちだと思います。お母さんは、ゆみ子が「ひとつだけちょうだい。」と言ったら、自分の分から一つゆみ子にあげます。お父さんは、ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いしてよろこばせます。

ある日、ついにお父さんが戦争に行かないといけないうちがやってきました。そして、十年の年月がすぎて、戦争は終わり平和な日になります。お父さんは帰ってきました。ゆみ子は、お父さんの顔を覚えていません。自分にお父さんがいたことも知らないかもしれません。わたしは好きな場面は、お父さんが「ひとつだけちょうだい。」と言いつづけるゆみ子に「ひとつの花をあげたところ」です。この物語を読んで、むかしの戦争のことについて考えました。みなさんも、この物語を読んでみてください。

☆四年二組

作品をしようかいする文を書こう  
「ひとつの花」  
マザーアディソン

「ひとつの花」の作者は今西祐行です。「ひとつの花」では、戦争のはげしかったころのある家族の話が書かれています。

登場人物は家族三人です。一さいのゆみ子はいつもおなかをすかしていました。ゆみ子のお母さんは、そんなゆみ子にいつも自分の分から一つ分けてくれるやさしいお母さんでした。あまりじょうぶでないお父さんは、ゆみ子のことを心配しながら、戦争に行きました。わたしの心にのこった言葉は、「一つだけちょうだい。」です。どうしてかという、これがゆみ子のはつきり覚えた最初の言葉だからです。お父さんが戦争に行く日も、「一つだけ。」「一つだけ。」と言っていました。

わたしの好きな場面は、お父さんがゆみ子に、「ゆみ。さあ、一つだけあげよう。一つだけのお花、大事にするんだよう。」と一輪のコスモスの花をあげたところです。食べ物ではなくて、コスモスをもらってもゆみ子はうれしそうでした。

そして、お父さんは戦争から帰ってこれなかったけれど、ゆみ子はたくさんのコスモスに囲まれてくらししました。みなさんも、この本を読んでみてください。

☆一年二組

えにっき  
やまだかいた

わたしは、おかあさん

とね

をまきました。

わたしは、ひまわり

にあさがお

をこすもす

をまきました。

いまから、はながさくのが

たのしみです。



☆ **一年三組** 「すきなこと なあに」  
ふじた いしん

わたしは、ダンスを  
することが好きです。  
どうしてかというと、  
たのしいからです。



☆ **一年三組** 「すきなこと なあに」  
くりはら あづき

わたしは、ようちえんに  
いくことが好きです。  
どうしてかというと、  
たのしいからです。



☆ **一年三組** 「すきなこと なあに」  
すずき しんたろう

ほくは、れごを  
することが好きです。  
どうしてかというと、  
たのしいからです。



☆ **一年三組** 「すきなこと なあに」  
ごううら たいせい

ほくは、ままと  
あそぶことが好きです。  
なぜかというと、  
ままとあそぶと  
たのしいからです。



☆ **二年二組** 「スイミー」のかんそう文  
しん ありさ

わたしは、スイミーが「みんないっ  
しょにおよぐんだ」と、いった  
ところが大好きです。  
どうしてかというと、  
スイミーがかっこいい  
考えを出したからです。



☆ **二年二組** 「スイミー」のかんそう文  
ながや いちか

ほくが目になろうと言ったところ  
が大好きです。りゆうは、スイミーは、く  
ろいからほくが目になろうと  
いうのが、いいアイデアだと  
思うからです。わたしは、  
スイミーにあたらしい  
きょうだいが  
できてうれしいです。



☆ **一年三組** えにっき  
いとう かりな

わたしは、かぞくでバーベキューをしまし  
た。わたしは、ハンバーガーとワインナーを  
たべました。とてもたのしかったです。  
そのあと、おじいちゃんと  
いっしょにバスケットボール  
であそびました。  
たのしかったです。



☆ **一年二組** えにっき

わたなべ はると

りょうしんと日本から来たおじ  
いさんとおぼあさんとヨセミテ国  
立公園に行きました。  
たきをめざして、山登りをしまし  
た。急なしゃ面を休けいしながら登  
りました。

水しぶきがちょっときたところ  
で、お母さんが  
「あぶないから もどろう。」  
と、言いました。

でも、ほくとお父さんは、急なか  
いだんを上っていきました。

しばらく登ると  
水たまりですべり  
そうだったので  
もどりました。

もうすぐ  
ちょう上  
だったので、  
くやしかったけど  
たのしかったです。



